

新型コロナ  
第2波対策

# 市民の命・くらし・文化まもれ 日本共産党市議団が積極提案

2020年 第2回定例会報告(第3回臨時会報告を含む)



地下駐車場でPCR検査が行われているサン町田旭体育館

## PCR積極検査と保健所、 市民病院の体制拡充を

殿村健一市議は、一般質問で、新型コロナウイルス感染症の第2波に向けた対策として、PCR検査の積極的実施、保健所、市民病院の体制強化を求めました。保健所長は、4月27日から地域外来・検査センターが設置されたので、濃厚接触者については積極的にPCR検査を実施すると答弁。市民病院事務長は、東京都の要請でコロナ患者の受け入れ

町田市議会2020年第2回定例会(6月議会)が6月4日から26日まで行われました。日本共産党は、新型コロナウイルス感染症から市民の命とくらしを守る対策を一般質問で提案。共産党が提出した『持続化給付金の事務委託をめぐる問題の真相究明を求める意見書』が賛成多数で可決しました。また、7月21日に行われた第3回臨時会でコロナ対策の26億円の補正予算が可決しました。

病床を増やしている。第2波に対応できるように体制をとると答えました。

## 中小事業者家賃補助の 継続を「第2弾」実施

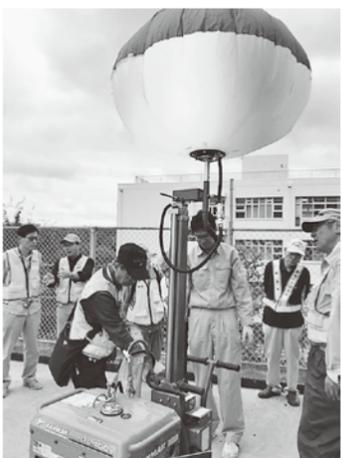
5月の補正予算で実施した市独自の中小企業者家賃補助(第1弾)は、コロナの影響を受けている1939事業者から申請があり、歓迎されていました。引き続き「第2弾」の実施を求めた質問に、経済観光部長は、「適切に対処する」と答弁。7月補正で、家賃補助「第2弾」が予算化されました。補助期間が、1)5月→1~7月に、補助金額が、2)か月分(上限40万円)→4か月分(上限80万円)となりました。

## 「コロナで文化の 灯を消さないで」

質問では、「文化は生きる力」と述べた女優の渡辺えりさんの発言を紹介しながら、音楽家や演劇人など活動の場を失ったアーティストへの支援を求めましたが、文化スポーツ振興部長は、活動場所の提供やホール等の使用料の減免は考えていないと答弁。アートにエールを!東京プロジェクトの第1弾は終了していますが、今後、国や都で実施される場合には、市のホームページで積極的に情報提供をすると答弁しました。ライブハウスへの支援を含めて、文化の灯を消さないよう求めました。また、「ポストコロナ」における社会のあり方や自治体の役割については、自己責任、福祉削減などの新自由主義を改め、連帯と人の命と暮らしを大切に作る社会、自治体への転換を求めました。政策経営部長は、「住民の福祉増進」の責務を果たしたいと答えました。

## コロナ禍から介護、 保育、福祉を守れ

細野龍子市議は、コロナの影響で



避難施設に配備されたバルーン投光器

## 今こそ少人数学級、 全員給食、避難所増設を

利用者が減り、経営が困難になった高齢者など福祉施設を守るための財政的支援を求めました。いきいき生活部長は「特養ホーム、居宅サービスへの支援を検討する」と答弁。第3回臨時議会に介護サービス支援事業として2億8千万円予算が付きました。市内の特養ホームに一床あたり7万円、15%以上減額になった居宅系事業所には1施設60万円支給されます。また、保育園、幼稚園には、1園50万円補助金が付くことになり、使途は消耗品や備品の購入のほかに、人件費や委託費も認めると答弁しました。

佐々木智子市議は、学校の長期休業による学習格差解消や少人数学級実施を求めました。指導室長は「国の方針、予算措置があつたうえで検討する」と答弁。コロナ禍の今こそ中学校全員給食の実施を要求。学校教育部長は、「民間委託では災害時の迅速な対応は難しい」として、「他の手段を検討していく」と答えました。また、風水害の災害対応を求めたところ、「避難所を増設する」との答弁がありました。